

市原市認知症対策連絡協議会 第10回例会議事録

日 時 平成28年(2016年)7月28日(木) 18時30分～21時00分

場 所 市原市市民会館 3階 大会議室 参加者 64名

1. 高橋瑞穂副会長挨拶

2. ミニ講演会

消費者生活センターの役割について

市原市消費生活センター所長 内山浩史 様

1) センターの紹介

市原市消費生活センターはサンプラザ市原2階、五井支所奥に設置されており、4名で相談対応している。又、講座やセミナーの開催や出前講座の開催、消費者トラブルや見守りガイドブックの紹介があった。

2) 消費生活相談の現状

①全国の高齢者に関する相談が多い商品やサービスの中で、最近ではスマートフォンなどのIT関連の相談が増えてきている。又、認知症等の高齢者に関する相談では、販売購入形態別割合で訪問販売が多く、住宅系が多い。

②市原市の相談件数は全体で1日5～6件で昨年度より多くなっている。又、商品・役務別相談件数の運輸通信サービスで、IT関係が増えており、ワンクリック詐欺や架空請求が多くなっている。

3) 相談事例

実際の相談内容の事例があり、相談員のアドバイスで解決したことの報告があった。

4) まとめ

認知症のトラブルとして、本人の認識が衰えているため、周囲が気づきにくく、支払う金額も高額になる傾向にある。それを防ぐ為には、注意、声かけ等の見守りを行い、困ったことがあれば消費生活センターまで連絡をほしいとのことであった。

3. プロジェクト間の交流会

全体で2つの意見があった。

1) つなぐプロジェクトより、今後、何をすればよいかわからないとの提案。

2) 以下の課題を検討してほしい

①若年性認知症→就労やデイサービス

②認知症サポーターの活動推進→お手伝い(ボランティアセンターなど)

③認知症スクリーニング→認知症検診やiPadの利用

④つなぐ→終活や介護者との関係

- ⑤パソコン及び家電支援隊→パソコンカフェ
- ⑥新規プロジェクト検討→施設入所者に対してスカイプ利用

4. 各プロジェクトに分かれて検討

- 1) 多分野連携プロジェクト
 - ①多分野連携としての目標を定め、検討していく。
 - ②研修会を通じ、今後も顔の見える支援者作りを行っていく。
- 2) 若年性認知症対策プロジェクト
 - ①カフェかさねで進行性失語の交流会を行い、約10名の参加者があった。次回、10月中旬に行う。
 - ②屋外での軽スポーツの検討していく。
- 3) 認知症サポーターの活動推進プロジェクト
 - ①講座を受けただけの人が多く、意欲的に活動したい人を選別していく。
 - ②サポーター講座を行う。
 - ③活動資金として、千葉県活用促進事業利用を検討する。
- 4) 在宅介護者を支えるマニュアル作成プロジェクト
 - ①在宅介護者を支えるプロジェクトに名称変更する。
 - ②エンディングノートを作成しており、完成しつつあり、今後カットやレイアウトを考えていく。
 - ③介護者が相談先一覧表を作成する。
 - ④ケアラズカフェ（介護がつどう）の検討。
- 5) 認知症スクリーニングプロジェクト
 - ①スクリーニングテストが完成した。
 - ②活用方法は、敬老会、福祉まつりで配布し、記入していく予定である。
- 6) つなぐプロジェクト
 - ①プロジェクトは凍結
- 7) 服薬支援ネットワークプロジェクト
 - ①各地域包括センターの圏域ごとに行った服薬アンケートは460名から結果が得られた。
 - ②お薬手帳の活用や一包化を検討しているが、正確に服薬しているかわからない為、薬局と介護など、情報共有ツールの活用を含め検討する。
- 8) 送迎プロジェクト
 - ①辰巳萬緑苑と社会福祉協議会と合同で買物支援のための車両の手配を行った。
 - ②法律の壁があり、金銭を取ると違法になってしまう。
 - ③団地がある場合、移動販売の検討が必要である。

9) パソコン家電支援隊プロジェクト

- ①介護者居酒屋を実施し、介護者の声は聞けたが、初期トラブルもあり、スカイプの操作は素人には難しいと感じた。

10) 新規プロジェクト検討プロジェクト

- ①認知症宣言案、今後、紙面のレイアウトを考える。
- ②物忘れ対処マニュアルの印刷と発行。
- ③医療ガイドの最新版が発行されるように働きかける。

5. 全体

- ①予算化してほしいプロジェクトは8月5日までに事務局に **FAX** を入れる。
- ②7月度版、市認協ニュースを作成している。